

半田更生保護サポートセンターだより

情報発信を通じて更生保護の諸活動に対して地域の理解や協力が十分に得られるように努めます。

vol.08 2023.01



法務省宮田祐良保護局長 榊原弱者救済所跡を訪ねて

令和4年7月28日（木）、半田保護区保護司会、榊原弱者救済所跡保存会、はんだ郷土史研究会等の皆様と久世半田市長のお出迎えの下、宮田保護局長が半田市鴨根の榊原弱者救済所跡公園を訪ねました。

作家・郷土史家の西まさる氏に御案内いただき、創始者である榊原亀三郎の足跡を辿るパネルや公園内にある榊原亀三郎の活動を支援した91人の名前が刻まれた紀念碑を参観したほか、「三本足の白狐」の像も見学し、かつて鴨根の丘に住んでいた童話作家としても有名な新美南吉と榊原亀三郎の関わりなどの説明を受けました。

榊原亀三郎は、明治32年、更生保護事業の父といえる金原明善の影響を受け、社会事業家として、犯罪をしたことで行き場を失った人、親を失った子どもや障害者などを保護・救済する榊原弱者救済所を個人で造りました。以来、閉所に至るまで30年

にわたり、延べ1万5千人の社会復帰を支援したといわれています。短期間でこれほどの支援を実現できた背景には、上記の紀念碑に刻まれた半田地方の企業をはじめとする地元の人たちからの理解と協力があったことも大きいといえるでしょう。榊原亀三郎の精神と救済所の営みは、「誰一人取り残さない共生社会」の実現を目指す更生保護にも深く通じるものがあり、宮田保護局長も、「これだけ多くの人の支援を得ていたことに驚きました。この地域には元々、福祉や弱者救済に理解のある住民の方々が多くかったのでしょうか。榊原弱者救済所のことは西氏の本で知っていたが、改めて現地を訪ねてみて、榊原亀三郎の弱者救済の息吹に触れることができました」と述べ、榊原亀三郎の成した偉大な功績と、地域の方々からの支援の必要性を再認識する機会になりました。（法務省保護局）



“社会を明るくする運動”作品表彰式

法務省が主唱する第72回“社会を明るくする運動”的事業として「作文コンテスト」「ポスター・コンクール」を実施しました。

作文部門には市内の小学生から302名、ポスター部門には市内の中学生から57名の応募がありました。

10月18日に半田市役所にて表彰式を行いました。“社会を明るくする運動”半田市推進委員長の久世孝宏半田市長より表彰状を手渡していただきました。

作文部門の優秀賞は、花園小学校1年の中島歩さん、有脇小学校6年の結木陽麻さんが受賞。ポスター部門の最優秀賞は半田中学校2年の長田創さん、優秀賞は青山中学校1年の鈴木英資さんが選ばれました。

作文には、「いい街を作るにはみんなで協力をしなければならなく、みんなで考えていくことが大切。」「多様性を認め、周りの人と自分との違いからたくさんのこと学び、協力できる人になれよう」としたい」と考えが書かれています。

ポスターには、「犯罪に足を踏み入れないように、手を差し伸べて、安全な町、明るい地域社会になってほしい。」「みんなが笑顔で過ごせば、非行はおこらない。」との中学生の願いが描かれています。ポスターの最優秀作品は、来

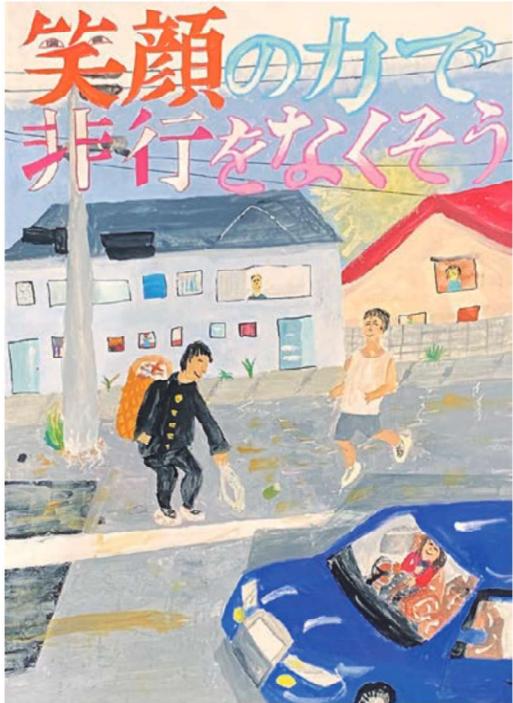
年度の“社会を明るくする運動”半田市推進委員会のポスターの図柄として採用させていただきます。



鈴木英資さん 長田 創さん



結木陽麻さん 中島 歩さん



優秀賞
鈴木英資さん



最優秀賞
長田 創さん



優秀賞

「たいせつなひと」

はなぞのしようがつこう

1ねん4ぐみ

なかじま あゆむ

はんざいってなんだろうとおもい、ぱぱとままとはなしあつた。ぼくは、2022ねんなつやすみのはんざいってなんだろうとおもい、みた。そのとき、さいばんかんのまえにたつていたひとがわるいひとで、そのひとがしたわるいことが、はんざいということはじめてしつた。そのはんざいをしたひとは、はたらいているばしょのものをぬすんで、うつておかねにしていた。それでにげていたけど、つかまつたみたいだつた。ぼくがしつてるはんざいは、ひとをじゅうでころしたり、じてんしゃやくるまのじこでまちがえて、ひとにあたつてあいてがしんじやつたりしたら、それもわるいことだとおもう。あとは、くるまをぬすんだり、ひとにばうりよくをすることほどんなりゆうがあつてもしてはいけないからそれがもはんざいだとおもう。ぱぱからは、ばうりよくをあおることもいけないとおしえてもらつている。ひとつわからるのは、けいさつがはんにん

はんざいのないしゃかいは、ぼくはいいまちになるとおもう。いいまちというのは、へいわで、へいわというのは、じこがなくてしんじやうひともすくなくなつてかなしむひともすぐなくなる。ぼうりよくがなくなつたり、どろぼうになにかとられることがなくなつたほうがいいとおもう。

もしばくがだいじにしてるげいむのすいつちをどろぼうにとられたら、またさんたさんがぶれぜんとしてくれるかわからぬ。そして、すいちができなくなるのはいやだ。ぼくは、いつもどおりにあさおきて、ゆうちゅうぶみてわらつてがつこういつて、またともだちとわらつてせいがつできることがいちばんのことだとおもつている。いいまちとは、ぼくはみんながわらつてせいがつできるといとおもう。

きょうりょくすることがだいじ。じぶんのいけんをほうりつをつくることもある。ぼくもこどもしょくどうに、にかいいつたけど、みんなやさしくておいしいこはんをいっぱいだしてくれた。こはんだけはなしでよくて、くだでもいいといつていて。こはだれでもいいといつていて。こはんがたべられてやさしいおとなにそよだんできるばしょが、たくさんでせつなひとだからだ。

ぼくはおおきくなつたら、はんざいとほうりつをたくさんべんきょうして、べんごしになりたいとおもつている。そしていいまちになるようにがんばつて、たいせつなともだちをまつて、いきたい。

をつかまえるときに、じゅうをだして、ばんつてうつてころしてしまつたら、はんざいになるのかな。これはこんどしらべてみたい。ぱぱにはんざいってきめるのはだれなのかきいてみた。はんざいはほうりつで、ほうりつはこつかいでのぎいんさんがきめているみたいだ。

かたしかめて、もしほんとうだつたら、なんでわるいことをしたのかはなしをききたいとおもう。わるいことをするときは、りゆうがあるとおもうし、がまんできなくなつているかのうせいがあるとおもう。ぼくもおとうととけんかするとき、ままがかのほうほうをかんがえる。じぶんひとりでかんがえようとしてむりなら、まわりのひとが、かんがえるのひとがにたすけてといえたらいいとおもう。おかねがなくておなかがすいたら、ものをぬすまないでまわりのひとがじゅうすやごはんをたべさせてあげればいいし、こどもしょくどうみたいなところにいけばいいとおもう。ぼくもこどもしょくどうに、にかいいつたけど、みんなやさしくておいしいこはんをいっぱいだしてくれた。こはんだけはなしでよくて、だれでもいいといつていて。こはんがたべられてやさしいおとなにそよだんできるばしょが、たくさんでせつなひとだからだ。

ぼくはおおきくなつたら、はんざいとほうりつをたくさんべんきょうして、べんごしになりたいとおもつている。そしていいまちになるようにがんばつて、たいせつなともだちをまつて、いきたい。

優秀賞

「兄弟から学ぶ多様性」

半田市立有脇小学校

六年 結木 陽麻

私は兄弟がたくさんいます。姉が一人、妹が一人、弟が一人で、自分も含め、五人兄弟です。同じ両親から生まれた兄弟でも、性格は全くちがいます。また、得意なことや苦手なことがあります。

一番上の姉は二十才で、物事をはつきり言う性格です。相手が悪いと思ったら、きちんと自分の考えを伝えることができます。また、手先が器用で、私は破れた人形を直してもらったり、ポーチを作りしてもらったりしたことがあります。

十六才の姉は、絵が得意で、自分が描いた絵をいろいろ人にプレゼントすることができます。また、自分の考えをもち、がんこだけれど、他の人に流されないという長所をもっています。私は、国語が得意で、読書や漢字の学習が好きです。だから、妹に、作文を書くことを手伝っ

たり、漢字を教えたりすることができます。二つ下の妹は、かっこしやすいけれど、兄弟の中では、一番兄弟思いです。兄弟が困っていると、自分のことよりも、その兄弟のことをまず助けようとすることができます。四才の弟は、元気いっぱい、どちらにともちゅう戦する気持ちをもっています。例えば、習い事の水泳では、試験に落ちても、あきらめずに何度も戦ることができます。お母さんは、とても忙しいけれど、私たちが困らないように、いろいろな家事をして支えてくれます。お父さんは、兄弟全員を公園に連れていくなど、私たちが仲良く過ごせるようにしてくれます。

兄弟が多いと、たくさんのことが起こります。困ることも、助かることもあります。困ることは、兄弟げんかが多いことです。静かに過ごしたい姉は、元気な妹や弟が気になつて、けんかになります。助かることは、勉強を教えあつたり、服をゆずり合つたり、意見を交かんし合えます。また、人とのちがいは、言い替えれば自分の個性です。ちがうところがあるからこそ、自分らしくいられます。考え方があります。肌の色、目の色、話し方など、表面的なことにとらわれず、その人の考え方や行動に目を向け、認め合い、お互に理解し

ることです。また、兄弟得意なことを生かして、それぞれの苦手を補い合うことができ

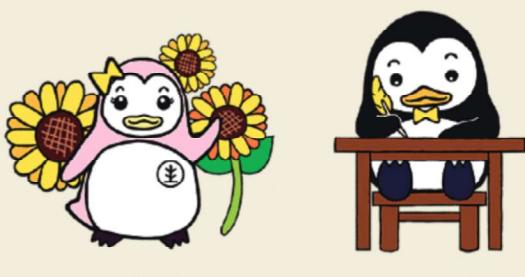
ます。

私は今、テレビなどで、「多様性」や「差別」という言葉をたくさん見かけます。私は兄弟とのいろいろな出来事を通して、多様性を大切にするすばらしさを学んでいると思います。

人は、自分とちがうところがあるからといって差別をするのはまちがいです。ちがうところ

を生かして、それぞれが得意なことをするよう協力すれば、みんなが幸せになります。だから、ちがうところがあつて当たり前、ちがつてラッキーと思っておくことが大切だと思います。

わたしはこれからも、周りの人と自分とのちがいからたくさんことを学び、協力できる人になれるよう、がんばりたいと思います。



サラちゃん

ホゴちゃん



研修部会報告

青木恵美子 部会長

研修部会長を拝命して4年目となります。が、2年目、3年目はコロナ禍のため活動は制限され残念でした。今年度は、7月4日に一般社団法人SDGsdesign代表理事の曾根香奈子さんによるSDGs勉強会を開催することができました。

“体感を通してSDGsを学ぼう”というテーマで地方創生ゲーム等を行い大いに盛り上がりました。11月には3年ぶりに1日視察研修を実施、はんだ郷土史研究会、代表幹事の西まさる先生のお話を聞いた後、更生保護精神の原点ともいえる施設、榎原弱者救済所跡に行きました。

また、年明け3月2日には、講師に刈谷病院の古川先生を迎えて特別研修会を開催します。覚せい剤、大麻等の薬物依存症の対象者を担当した時、保護司として薬物からの立ち直りを支えてゆくには、どうしたらいいのか?困っていること、聞きたいこと、当日は色々と古川先生にご教授いただきたいと思います。部



1日視察研修会 11月16日



SDGs研修会 7月4日

会員は7名と少数ですが、個性豊かで頼もしいメンバーです。保護司会会員の皆さまの参加をお待ちしております。

協力組織部会報告

福庭豊子 部会長

協力組織部会としまして、令和3年度は新型コロナウイルス感染対策を取りながらの事業開催となりました。12月に更生保護女性会と一緒に幼稚園を訪問させて頂きました。

例年のように教室に入り子どもたちに接することはできませんでしたが、子どもたちの笑顔に癒されました。

令和4年度は8月21日に、はんだ市民盆踊り大会で会場内の巡視を行いました。3年ぶりの開催ということで、踊る人、見学する人、屋台に並ぶ人等大勢の人でにぎわいました。

飲食エリアと盆踊り会場を分けるなど、感染予防対策もされ大きなトラブルもなく無事に終わりました。

また、昨年に引き続き「更生保護パネル展」を5月に半田市役所ロビーで開催しました。榎原弱者救済所跡の啓発を通じて、市民の皆さんに更生保護・再犯防止へのご理解とご協力をお願いしました。



「はんだ市民盆踊り大会」巡視 8月21日



幼稚園訪問 令和3年12月



犯罪予防部会報告

竹内俊郎 部会長

昨年度は、例年通り「社会を明るくする運動」標語募集を行いましたが、長く標語募集を行っていますと同じ様なフレーズが毎回使われることが多くなり、本年度の第72回「社会を明るくする運動」では、半田保護区として初めて中学生のポスター・コンクールを行うことにさせて頂きました。

初めての試み、普段馴染みの無いテーマで、どれだけの応募が中学生からあるのか? ハラハラドキドキでした。各中学校で応募数にばらつきは有りましたが、57作品の応募があり、有難い限りです。また、作品を作る過程において皆で「犯罪や非行の無い社会」について話し合う機会にもなったと思います。



薬物乱用防止に関する研修会 11月4日



“社会を明るくする運動”ポスター展示 11月

もう一つの事業として現職の薬物対策課刑事による薬物取締の勉強会を開催することが出来ました。

この先、若者達が薬物に関わらない為に地域社会として何が出来るか?を考える良い場が持てたと思いま

う間の1時間。

交流会後は半田市鴉根の鴉根史跡公園を訪れ、園内に残る「榊原弱者救済所」の跡地を視察。西まさる氏や地元住民らでつくるの榊原亀三郎が主宰したこ

と、明治～昭和初期の30年間で、孤児や服役後に行き場をなくした人など、延べ一万五千人を助けた話を講義いただきました。今後も保護司会の皆さまの来半をお待ちしています。

東保護区保護司会が9月28日、瑞穂保護区保護司会が11月24日に来半、半田市役所の会議室で交流会を開催しました。各保護司会の事業について発表後、意見交換、その後サポートセンターを見学しました。愛知県下に48保護区(保護司二千三百名余り)あるが交流の機会は意外に少く、社明運動、保護司の適任者確保、処遇支援、再犯防止推進計画、サポートセンター運営と課題も多く、活発な意見交換の場になりあつとい



瑞穂保護区視察交流会 11月24日



東保護区視察交流会 9月28日

保護司会視察交流会

名古屋市東保護区保護司会
名古屋市瑞穂保護区保護司会



半田更生保護サポートセンターだより vol.08 2023.01
<お問合せ先> 半田更生保護サポートセンター TEL 0569-84-0683
半田市東洋町二丁目1番地 半田市役所2階

半田更生保護サポートセンター
公式Facebook
 いいね! お願いします



発行：半田保護区保護司会
協力：半田商工会議所

半田更生保護サポートセンター
公式Twitter
 フォロー お願いします

